

近藤哲夫先生が、  
カラオケクラブにやって来た!



今年の一月から、  
当ホームのカラオケ  
クラブを指導される  
先生が月に二回の割  
合で来られるように  
なりました。

そこで今回、インタビューさせて頂きま  
した。

月指導内容は？

指導という指導はこれといってしてませ  
ん。発声することによって腹筋をつけたり、  
ストレッチ解消やりハビリに繋がれば...と思っ  
ています。

テンポがずれている人に対しては肩をた  
たいて指導しています。利用者の皆さんは  
本当に熱心にレッスンされていますよ。

月抱負は？

三恵ホームでの指導を長く続けていきたく  
いですね。町内のカラオケ発表会とかで、  
どんどん皆さんに披露していつてもらいた  
いです。定番の方ももちろんのこと、他の  
方の参加も期待しています。

これからもクラブを通じて皆さんと、楽  
しくやっていきたいものです。  
☆ありがとうございます。

指一本で操作する電動車椅子

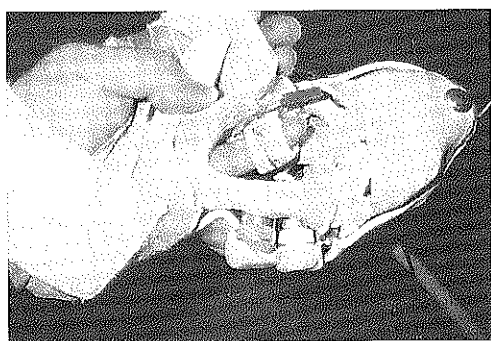
理学療法士 水田 秋敏

施設の前のアスファルトの上の電動車椅子。  
そばの権木に乗り上げることもなく上  
手に走り抜けている。その姿を見る度に、  
私とそして何よりも本人の努力の日々が昨  
日のことのように脳裏に浮かびあがる。

私が三恵ホームに勤め始めたのは、平成  
五年五月だった。そのとき、バケットシー  
トで座れはしたが、意志に反して移動手段  
を生まれたときから奪われた彼に出会った。

いろんな話をするうちに、声で動く電動車  
椅子を某参議院議員に問い合わせをしたが  
今だになしのつぶてだ、という話を聞き、  
理学療法士という枠を越えて何とかしてあ  
げたいという思いが惹起した。しかし、不

随意に動く手  
足がそれを許  
さない。



私はどうす  
ればよいのか  
途方に暮れた。  
病院で勤務し  
ていた私は、  
彼の身体を調  
べあげること  
から始めるし  
か方法を持た

なかった。声、知能、身体の大関節の可動  
域、そして筋力など。結局、何も見つけ出  
せず、何ヶ月か経過し夏となった。そんな  
時、私は小学生の頃見た映画を思い出した。  
ある戦士が戦場で瀕死の重傷を負い、手足  
は勿論のこと、眼・耳・口の自由が奪われ  
る。それだけを見て、周りの者は彼に自我  
があるとはつゆ知らず、物のように病院で  
扱うのだ。本人は気づいてほしい。そして、  
何年もして、彼は身体の「わずかな動き」  
をモールス信号として他人に気づいてもら  
えた、というストーリーだった。私は「わ  
ずかな動き」をもう一度見直した。それが  
左の小指だったのである。緊張につつまれ  
てはいるが、自分でコントロールできる  
「わずかな動き」は、彼と私のその後の二  
人三脚ならぬ二人一指の出発点となった。

(次号に続く)

